

平成30年度 函館市自殺対策連絡会議 会議録

開催日時	平成31年1月10日(木) 14:00~15:00
開催場所	函館市役所 8階第2会議室
出席者	別紙座席表参照 (庁外): 三上議長 外10名 (庁内): 阿部くらし安心課長 外5名 計17名
欠席者	(庁外): 北海道函館中央警察署生活安全課 徳田課長 函館公共職業安定所 渡部職業相談部長 函館商工会議所総務課 梨木事務局次長 北海道函館児童相談所地域支援課 箭原課長 函館弁護士会 百合弁護士 函館市民生児童委員連合会 佐藤事務局長 函館市小学校長会 大浦校長 (庁内): 函館市教育委員会学校教育部教育指導課 永吉指導主事 計8名
傍聴等	北海道新聞社, 函館新聞社
事務局	本吉次長, 加藤課長, 板谷主査, 山下, 柄澤

会議内容の要旨

1 開 会

2 次長挨拶

3 会議構成機関等の紹介

- 事務局(板谷主査)から会議構成機関等の各出席者および欠席者を紹介
- 事務局(本吉次長)から事務局職員を紹介

4 議事

(1) 協議事項: 函館市自殺対策行動計画素案(案)について

例年は、各部門から自殺の実態、対策についてご報告いただき審議している所ですが、本日は函館市自殺対策行動計画素案ができあがっておりますので、それについて審議したいと思います。

- 事務局から「会議資料1」に基づき説明
 - ・ 資料1が本編、資料2が概要版となっています。
 - ・ 計画の目標(P2)の数値目標について、函館市は自殺死亡率が年によって増減があるため、直近の3か年の平均値と比較して2028年までに30%の減少としました。
 - ・ 函館市の自殺の現状について、自殺者数は平成21年から25年までは順調に減少してきましたが、平成26年に一気に19人増加し75人となりました。その次の年からは、再び減少傾向にはありますが、平成29年は平成28年から2人増えて47人となっています。自殺率は、常に全道、全国より高く推移しています。
 - ・ 具体的な取組について(P14)取組の柱を10項目にしました。この10項目は、国が出している「自殺総合対策大綱」における当面の重点施策の12項目から10項目に絞り、函館市の取組の柱としています。この具体的な取組については、庁内の関係部局や自殺対策連絡会議、実務者会議の各構成団体の方々に、各々が取り組んでいる既存事業から自殺対策に通じる、生きる支援に関連する事業の照会を行い、整理したものです。
 - ・ 重点課題にかかる取組について説明
 - 「ゲートキーパー養成研修」は以前から実施していますが、今後は、特に高齢者、生活困窮者を支援する方々など、対象をその年その年で変えて実施していくことを考えています。

- 「心の健康を支援する環境整備」として、職場におけるメンタルヘルス対策の推進、高齢者の健康づくりと認知症等の家族支援を掲載しています。
- 「社会全体の自殺リスクを低下させる」という取組の柱においては、高齢者の虐待防止対策や高齢者の見守りネットワーク事業の実施、生活困窮者自立支援事業、生活保護受給者への就労支援事業、借金（多重債務）相談専門窓口における相談を取組として掲載しています。
- 「民間団体との連携を強化する」という柱の中に、高齢者地域ケア会議等による連携強化、ケアマネージャーに対する支援等が掲載されています。
- 「勤務問題による自殺対策」では、職場におけるメンタルヘルスの推進として、広報やストレスチェック、事業場におけるメンタルヘルス対策等の取組を掲載しています。

○ 質疑応答

・ （竹花委員）

- ①自死遺族支援について、遺児支援を函館市として力を入れてほしいです。
- ②計画の検討評価の仕組み、庁内戦略会議についてどのように考えているのでしょうか。
- ③市民ネットあかりの会員からの意見として、表紙の「誰も自殺に追い込まれることのない函館市の実現を目指して」が、自死遺族が見たときに責任を感じてしまったり、辛い気持ちになるのではないかとということで「生きがいを感じられる町」などにできないかという意見が出ました。
- ④パブリックコメントの前に市民団体への説明会は考えているのでしょうか。

（事務局）

- ①については、ご意見として受け止めさせていただきます。
- ②検討評価については、計画を策定するにあたり、他の計画策定では計画策定委員会を設置し、専門的にそこで評価、進行管理をしますが、「自殺対策行動計画」にあつては計画策定委員会を設置するのではなく、従来から開催している連絡会議、実務者会議で検討を重ねて計画策定に至ったので、今後も計画の検討評価、進行管理は連絡会議、実務者会議の場を利用して随時報告、評価、意見交換をいただくという形で考えています。
- ③計画名称については、色々な意見があることは想像していますが、自殺対策の最終目標である「誰も自殺に追い込まれることのない社会を目指す」ということで、この名称はこのまま素案として出していきたいと考えています。色々な意見があるということは認識したいと思います。
- ④については、今の段階では説明会というのは予定していませんが、今後、調査や意見を聞く場を設けることは可能かと思えます。

（竹花委員）

市民団体への説明を一同に行うのが困難であれば、素案を送って確認をとるといった進み方になるのでしょうか。

・ （事務局）

素案（案）を作成するにあたって、市民団体の代表者に、素案（案）を送りチェックしていただいて追加、修正しております。

・ （森谷委員）

P14～具体的な取組は、行政がやるものだけではなく、民間団体も含めた様々な機関に自殺予防の視点を入れていこうという中身だと思います。実務者会議に参加している機関であれば、自分の所属している団体において、自殺対策の取り組みを常にインプットしていくことは可能だと思いますが、会議に参加されていない団体、特に行政以外にどう普及啓発させていくのかという所が計画に入った方が良くと思います。例えば「〇か月に1回、団体との対話をもっていく」とか、「担当職員が会議に参加して啓発活動をしていく」など、そのようなことが具体的に出てこない、例えば、若者のサポートをしている「ヨリドコロ」のスタッフは、ゲートキーパー研修に参加したことがあるのかなどは把握しているのでしょうか。

・ （事務局）

今まではゲートキーパー研修への参加はありません。

- ・ (森谷委員)
 このような民間の所がゲートキーパー研修に参加したり、先ほど竹花委員がお話しされていた自死遺族の遺児に対する支援の講習会へ参加していくように、行政としてもアプローチしていくことがとても大切だと思います。市内の色々な活動を整理してまとめたので、これを有機的に連携させる役目を保健福祉部に担っていただけたらと思っていますので、そういったものが入ると、より実質的なものになるのではないかと思います。
- ・ (三上議長)
 民間のグループは素案ができるのをわかっている、そのような気持ちの統一はされているのでしょうか。
- ・ (事務局)
 民間団体には、自殺対策行動計画を立案するにあたって関連する事業にはどのようなものがあるか、ということで照会しているので、計画の趣旨については理解してもらっています。
- ・ (三上議長)
 連携ということが強調されているので、心をあわせる機会、行動をお互いに確認するシステムが必要ではないかと思います。
- ・ (竹花委員)
 市民団体への説明会が、まさにいま仰ってくださったようなことですが、ここに名前が載っている団体に対して、パブリックコメントの前に一同に会してというのは本当に必要なことだと思いますので、ご配慮いただけたらと思います。
- ・ (三上議長)
 他にご意見等ありませんか。今後の計画についてはどうなるのでしょうか。
- ・ (事務局)
 今後は、1月下旬から1か月程度パブリックコメントを行い、市民の意見を参考にして3月末に完成する予定です。
- ・ (森谷委員)
 評価についてですが、5年目の中間評価は行いますが、毎年何らかの評価が行われるということで良いですか。
- ・ (事務局)
 細かい評価は難しいと思いますが、それぞれ取り組んでいる進捗状況の報告を会議で行っていく形になるかと思っています。
- ・ (竹花委員)
 パブリックコメントの後、どのように進んでいくかということですが、パブリックコメントでどのような意見が出てどのように変わったかということは会議で報告されるのでしょうか。また、議会の関係はどのようになるのでしょうか。
- ・ (事務局)
 議会の関係ですが、パブリックコメントを始める前と終わった後の意見とその対応について、民生常任委員会に報告します。変更点があれば議長に報告し承認していただきたいと思っています。
- ・ (三上議長)
 パブリックコメントの後で何らかの訂正があった場合には、議長に任せていただき、皆さんには何らかの形で報告が必要ですね。
- ・ (事務局)
 パブリックコメントで出た意見や対応については皆さんに報告したいと思っています。
- ・ (竹花委員)
 パブリックコメントの後、会議ではなくても皆さんからの意見をいただく機会があった方がより良い計画になるかと思いますが。
- ・ (事務局)
 パブリックコメントの後の報告については郵送やメールでさせていただきたいと思っています。

5 その他

- 「函館・道南SART」について(子ども未来部子育て支援課から)

資料に沿って「函館・道南SART」について説明がある。周知，活用してほしいとのこと。
(質疑応答)

森谷委員：このパンフレットは教育機関には配布されているのでしょうか。

兵庫委員：例えば，教育大学であれば性暴力を研究している所や学生相談担当へ配布しています。

森谷委員：この統計の中のカテゴリーは，ひな形があるのでしょうか。

兵庫委員：性暴力被害者支援センター北海道（SACRACH）の報告書に合わせて作成しています。報道機関にも出している資料になります。

森谷委員：学校関係が突出していますね。

兵庫委員：個別の内容については答えられませんが，同じ事案で何度も相談がある場合は，件数が増えていく形になります。

- 法テラスについて(日本司法支援センター函館地方事務所から)
パンフレットの紹介

- 来年度の委員交代の報告依頼について（事務局から）

次年度の委員の報告について，3月頃に文書を送りますので来年度の委員の報告をお願いします。
また，連絡可能なメールアドレスもあわせてご報告いただきたいと思います。

(閉会)